

第22回 MASセミナー 巷

「景観と屋外広告」

日時:2016/6/4(土)
講演:14:00~16:00



「看板と建築の関係」
看板は東京の街のイメージからは外す事の出来ない要素です。佐伯祐三のパリの風景画には古い煉瓦や漆喰の壁に何重にも貼り重ねたポスターが印象的です。

看板やポスターはその広告主は勿論、利用者(市民)にも必要なサインですが、問題は街並とどう調和させられるかでしょう。問題点はふたつあります、ひとつはサインの作り方、もうひとつはこれらのベースになる建築(街の外壁)のありかたでしょう。こうなると建築がまずしっかりと筋のおったものであることがサインをどのようにするかに大きく影響するということになります。



今井 均



屋外広告は地域住民の「顔」そのもの。やることはいくらでもあるが、景観は個々の広告相手だけではとても片付かないし、一方で個々の広告の字体、色、レイアウト、素材、取り付け位置の細部まで、そのセンスが気になる。見る方にしても、「もっと判りやすい看板に」とか、「この角度から見えるようにつけて」というような注文さえあろう。「本質的には」、広告、看板のコントロールは、思うようには出来ない。地域住民の文化度がそれを許す限りのことはやってしまうからだ。それを指導するには、長期に渡り、かなりの総合的視野と感性の揃った行政委員会構成、それに強制力を必要とする。



大倉 富美雄



黒木 正郎

「街並みをつくる看板デザインとは？」
自分は、アジアの町で看板があふれる光景は嫌いではありません。統一感や密度もっているにぎやかな風景は活発な経済活動を誘発する力を持ち、繁華街らしい魅力を与えてくれます。

広告の規制を考えるには、住宅地や落ち着いた景勝地など、厳しい規制するエリアと商業地を区分して行うことが大切だと思います。商業地では、看板や広告のあり方に統一したルールをもたせることが町の魅力になるのではないのでしょうか。ルールづくりにはいろいろな工夫と配慮、デザイン力が必要になると思います。魅力的な町の事例を少し研究してみたいと思います。



田口 知子



新緑が香る住宅街の静かな並木道、繁華街を彩るネオン、夜道に光を灯すコンビニのサイン、いずれも都市や生活に潤いや安全を与える大事な街並の要素である。だが、場をわきまえない広告が混乱を生む。これを守らせるには、街並ごとにサインを規制することが必要である。それには、建築家と住民が景観に関心を持ち、お互いに協力して社会に対して意見を言える環境が大事になる。



宮田多津夫

東南アジアの都市を特徴づけるものに屋外広告がありますよね。その猥雑でもある不思議なエネルギーあふれる色彩感覚は人間のもつ欲望の吐露そのもので、危ない魅力を醸し出していると感じます。たまに訪問したくなる異空間です。でもこれは、四季折々の美しい日本の風景に馴染むとはとてもいえませんよね。人にそつと寄り添うメンタリティの私たち日本人にとって、ぐいぐい目に障る屋外広告はストレスそのものです。広告の存在は、まちづくりそのものに影響することとして、真剣にとらえたいと思います。



村上 晶子

「広告で覆われる街をどう改善すれば良いのか」
広告には2種類あると言われている。自分のお店の看板や広告、これはまだ許されるところでしょう。問題なのは、宣伝を目的とした屋上や建物の壁、様々なところにある広告看板である。これは街の景観を台無しにしてしまう。置き看板も問題だ、ぶつかって危ない！建物自体が広告化している状況さえある。これを改善するためにはどうすれば良いのか？ご一緒に考えましょう！



連 健夫